

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191700012		
法人名	有限会社 松神建設		
事業所名	グループホーム 灯り コスモスユニット		
所在地	北海道久遠郡せたな町大成区都463番地3		
自己評価作成日	令和3年1月25日	評価結果市町村受理日	令和3年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域の中に立地しており、なじみの人や地域の方々がいつでも来られるよう自由に入
入りにできるようにしています。
・入居者様にあつては、日々の生活をプログラム化するのではなく、その日その時の状
況に合わせて生活いただけるよう心がけております。
・職員にあつても型にはまらないケアができるようそれぞれの個性を尊重し自由な発想
でケアできるよう支援しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0191700012-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和3年2月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念、ユニット単位の理念をユニットの見やすい場所に掲示しています。入社研修時に理念についてしっかりと学ぶ機会を設けており、その意味を正しく理解し、意識してケアに取り組んでいます。ユニット単位の理念の定期的な見直しは行っていないのが現状です。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域との繋がりを大切に、ご家族様や地域の住民が気軽に寄られています。行事や防災訓練にも協力をいただき、地域の一員として交流しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は近隣住民からの介護などに関する相談や疑問には出来る限り対応しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催し、入居者様の状況や取り組みについて報告しています。各委員からは質問や助言をいただき今後のホーム運営に反映させ、サービスの向上に取り組んでいます。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当との連携は主にホーム長が行っています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修や講義には出来る限り参加するようにしています。そこでの内容や資料を回覧で周知し、禁止となる具体的な行為を正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいます。ただ、すべての職員が研修を受けていないので、今後は均等に研修に参加出来る体制を整えていく必要があると思います。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	町主催の講習や研修会には積極的に参加し、その内容や資料を回覧にて報告しています。学習会や定例の会議で触れ虐待を見過ごすことのないように、職員同士情報を共有し虐待防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について学ぶ機会は少なく、職員全てが理解するのは難しい状況ですが、町主催の成年後見人の講習に参加した職員やこの制度を利用されている入居者様もいることから、今後は職員全体で理解を深めていく必要があると思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する手続きはホーム長が中心となって行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からは日々のコミュニケーションを通し、ご家族様からは面会時や訪問時、電話などで意見や要望を伺い職員に周知し、少しでも実現出来るように努めています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、主任以上会議を実施し提案や意見を聞く機会を設け、会議の内容を代表者に把握していただいています。また、代表者はアンケートの実施や個々の職員と面談する機会を設け運営に反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々の能力に応じ、給与水準や手当などに配慮しています。資格取得や研修参加の際のシフト作成の配慮や旅費などの金銭的な援助をいただき各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や講習会への参加へのシフト調整や参加費や交通費、宿泊費など、経済面での援助がありますが、参加する機会は十分とは言えないと思います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者や管理者は講習会などで同業者と交流する機会がありますが、職員についてはそのような機会は少ないと思います。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前情報を基に職員間で共有しながら意向の把握に努めています。日々の会話や表情から困っていること、不安なこと、要望に耳を傾け安心していただき良い関係が築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前情報を基に、不足の部分は面会時などにご家族様から不安や要望をお聞きし、できる限り要望に応じられるように努め、ご家族様との良い関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	直接の要望の他ご本人やご家族様との会話の中で、今何に困っているかなど必要なサービスを見極め、入居後の支援に繋げています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご本人様は生活を共にするという関係が築けるように共に家事やレクリエーションを行うなどしながら時には自分の家族と同様と考え良い関係が築けるように思いやりの心を大切に快適に生活していただけるように努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様に変化があった場合は随時ご家族様に報告し、在宅時での状況をお聞きし対応をアドバイスしていただいています。共にご本人様の状況を共有し支え、その後のケアに活かしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会、行きつけの店での買い物や散髪など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように送迎などの支援をしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性が良好に保たれるように、個々の入居者様の性格や入居者様同士の関係に配慮させていただいています。トラブルに発展した際には直ちに仲介したり、席替えなどの対応図り、一人ひとりが孤立しないように心掛けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	様々な事情でサービスが終了しても退去後の様子をご家族様よりご連絡いただいたり、捕れたお魚や自家菜園で収穫した野菜を届けていただいています。残念ながらご逝去されたご連絡をいただくことがありますが、これまでの関係を大切にしながら今後も良い関係を保っていきたいと思っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、会話や表情などから意向汲み取り把握に努めています。困難な場合はご家族様に相談するなどしています。介護者本位の対応にならないように心がけています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	管理者、計画作成担当者が中心となり、ご本人様、ご家族様と面談し生活歴を聞き取り事前情報を作成しサービス利用経過の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の生活や心身に変化があった時は、記録、申し送り、ユニット会議などで職員に周知し現状を共有するようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度ユニット会議を開催し、入居者様本人の声、ご家族様の意向や確認したこと、職員からみた入居者様の変化や気づきについて意見を出し合い話し合った結果を基に計画作成者が中心となってケアプランを作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やご本人様の言動や訴え、気づき、ケアの仕方などを個別記録や日誌に記入し、実践しながら職員間で情報を共有しケアプランの見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様が対応出来ない町外の受診送迎にも無償で対応しています。また、一時外泊の送迎やご家族様から入居者様への差し入れ品の引き取りとお届けにも対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町主催の敬老会や、他の施設のレクリエーション会にご招待をいただき、全員ではありませんが参加させていただき、楽しんでいただけるように支援しています。また、地域のボランティアの慰問をいただき、芸能や音楽を披露していただいています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム近隣の診療所と連携しています。また、八雲総合病院の訪問診療や巡回診療、町外の受診にも対応しご本人様やご家族様の意向を大切にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はおりませんが、入居者様の体調の変化を把握し、適切な診療が受けられるように配慮しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中、病状の把握、必要品の連絡や面会を図っています。退院後も定期的に受診しアドバイスを受けていますが、土日は診療所が休診のため、緊急時には不安があります。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」を作成しご家族様から確認と同意をいただいています。ターミナルケアの対応はしていませんが、心身状態に著しい変化があった時は速やかにご家族様に連絡し、可能な限りの対応をしていきたいと考えております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成して夜勤時など、時間がある時に読むことが出来るようにしています。前職の関係で過去に十数年間継続して救命講習を受けていた職員もおりますが多くの職員が応急手当や訓練については行っていない為、実践力に欠け不安があります。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣住民の方々との協力体制が出来ており火災想定避難訓練は定期的実施し万が一のときに混乱せず行動出来るようにしています。地震や近年多発している水害を想定した訓練は実施出来ていないので実際に災害が発生した場合のことを考えると不安があります。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し声掛け職員本位の表現にならないようにしています。入居者様の誇りやプライバシーを損ねることのないように配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを大切にし、思いや希望を気兼ねなく打ち明けられるよう信頼関係の構築に努め自己決定出来るように配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合が主体とならぬよう入居者様のニーズやペースに合わせながら希望にそって臨機応変に対応出来るように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容や外出時の身だしなみ、定期的な散髪や白髪染め、行きつけの理美容院への送迎など、ニーズに合わせて支援させていただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえ、茶碗拭きなど、個々の入居者様の残存能力に合わせ、出来ることを行っています。また、個々の好き嫌いを把握し対応するようにしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お粥、さざみ食、ミキサー食、トロミ食にするなどその日の体調や咀嚼力、嚥下障害に配慮しながら対応しています。食事量が著しく少ないときは、間食や栄養補助飲料にて摂取できるように工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されている入居者様は声がけで促させていただき、介助が必要な入居者についても個々の状態に配慮し、見守りと一部介助にて毎食後に実施しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の個々の状態に合わせ、できる限りトイレでの気持ち良い排泄ができるように対応を検討しています。自力での排泄が困難な入居者様には、その人の排尿、便周期に合わせ声がけ、誘導をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな入居者様には下剤などで排便コントロールの管理をさせて頂き、職員間での情報共有を表を用いて実施しながら便秘が解消されるように配慮しています。食物繊維の多い食材の調理や水分補給にも留意しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月曜日から土曜日に入浴日を設けています。体調やADLに配慮し別ユニットのリフト浴を利用される入居者様もおります。入居者様の要望には応じるようにしていますが、午前や夜間の入浴の要望に応えるのは難しい状況です。入浴を拒否された入居者様に対しては状況により、清拭させていただき対応をしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状況や、その日の体調、表情などにより居室にて休んで頂くよう声がけをしています。居室でテレビを観て過ごされる入居者様もおり、基本的に好きな時に休んで頂けるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服用している薬の一覧をすぐ見れるようにしています。また、個々の入居者様の受診ごとに連絡表を作成し受診結果を必ずご家族様、職員に周知しています。服薬ミスがないように職員同士声を掛け合い2重3重のチェックをしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵やドリル、製作など、入居者様個々の得意なことに取り組んでもらったり、生活が短調にならない様に配慮しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の全体的なADLの低下もあり、散歩やドライブが少ないのが現状ですが、年に数回は出掛ける機会を作っていますがコロナウイルス感染予防の観点からおこなっていません。行事に応じ同社他事業所の職員の協力を頂くことがあります。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物をする機会は少なく、残念ながらお金の管理が出来る入居者様は殆どいらっしゃいません。訪問販売などで商品を購入した場合は職員が支払いの支援を行っております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は入居者様の希望に応じ対応しています。その時に、職員がご家族様に出来るだけ近況の報告をしています。ご希望があれば手紙やハガキのやり取りも支援致します。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に、切り絵や塗り絵(入居者様と職員で作成したもの)やリビングには季節に応じ、クリスマスツリー、まゆ玉飾り、雛壇などを飾ったり、四季折々の装飾を施し季節を感じて頂ける様に工夫していますリビングの温度などは入居者様に聞きながらこまめに調整しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の人間関係やADLに合わせ、食卓テーブルの配置替えなどを状況を見ながら行い、なるべくホールで過ごして頂くように心地よい空間づくりに努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使っていた調度品、家具、小物類を持ってきて頂き入居者様にとって落ち着くことが出来る空間になるようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様のADLの変化に合わせて居室環境の見直しを行い、必要な時は都度ご家族と相談し、またユニット職員と話し合い、暮らしやすい環境づくりに努めています。		